

## 5. 地域医療教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（\*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

### 【2017年（平成29年）度】

#### 1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

##### ○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

【連携】（\*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
- ・金沢大学と単位互換制度をとり、ゆるやかな連携を予定している。

<金沢大学>

##### ○ 薬物治療検討会

- ・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。

##### ○ 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進（\*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。

##### ○ 地域薬剤師・薬学教員間連携コンソーシアムによる薬学教育の革新と臨床現場での課題解決（\*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、地域薬剤師と薬学系教員の連携により、学生や地域の若手薬剤師に対する教育の推進と臨床現場での課題解決を目指して「金沢薬学革新コンソーシアム」事業を実施した。
- ・2016年度から実施している事業であり、地域薬剤師と本学薬学系教員とが連携する金沢薬学革新コンソーシアムを母体とし、臨床現場で起こる課題を、薬学系教員の指導のもと、本学の課題解決型授業(卒業研究等)に取り込み、その解決へ向けた提案を行って

きた。本年度はこの骨格を維持しつつ、薬学類学生が臨床現場と大学とを行き来する実務実習を新たに利用し、課題提案型授業を開発することでこのサイクルを加速し、高度化を図った。

- ・このサイクルは、1) 薬剤師が臨床現場で見出した課題を本学教員が窓口となり吸い上げる、2) 学類生が実務実習等を通して自ら課題を見いだす、3) 当該課題を課題解決型授業の教材として活用し地域を志向した人材育成を図る、4) 教員との連携により患者検体の薬物・生体内物質濃度測定等の予備検討を行う、5) 地域薬剤師に対し課題解決への提案を行う、といった地域貢献・教育・研究の連動に特色がある。

#### <名古屋市立大学>

##### ○ 沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習の開発 (\*)

- ・学部生を対象として、本学オリジナルで行っている多職種協働での地域医療に貢献する高度医療人材養成プログラムの一環として、コミュニティ・ヘルスケア論の授業(選択 実習)として位置づけ、1年次生からのプログラム受講者の最後の実習として1週間の沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習を実施した。
- ・学生が現地の住民とコミュニケーションをとり独特の文化を理解するところから始まる本実習は、コミュニケーション能力、課題解決能力の醸成に有効と考えられる。
- ・本実習は、本学看護学部とも連携をとって行っており、IPEの一環として、若い教員の地域医療教育のFDとしても活用している。2017年度は、来年度以降の本格実施に向けパイロットケースとして2回の実習を企画し、今後の研修の可能性を探った。本実習は、実習施設、宿泊施設の提供などを琉球大学医学部附属病院ならびに沖縄県北部地区薬剤師会の全面的な協力を得て実施した。

#### <岡山大学>

##### ○ 検体測定に関する公開講演会 (\*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、検体測定に関する公開講演会を実施した。薬局等での自己採血による検体測定が正式に認められ、今後薬局では適切な受診勧奨の判断ができる能力が必要でありその際に検体測定は大きな武器に成り得ることから、岡山県でいち早く検体測定室を設置した薬局と地域住民の糖尿病治療に貢献している薬局の薬剤師を講師として、「検体測定は地域住民を救い、薬剤師も救う！-薬局薬剤師による検体測定の意義-」と題する公開講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生4名、教員3名、薬剤師3名

##### ○ サプリメント等の臨床的エビデンスに関する公開講座 (\*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、部生及び大学院生を対象として、サプリメント等の臨床的エビデンスに関する公開講座を実施した。薬局薬剤師は、今後地域におけるOTCでのセルフメディケーションの他、健康相談を受け健康食品やサプリメント等を用いた疾患予防・健康寿命延伸にも貢献することが求め

られていることから、DHC研究顧問である医師を講師として、「薬剤師は地域住民の健康維持・増進に何ができるのか？ -健康食品・サプリメントの有用性に関するエビデンスを知る-」と題する90分2コマの公開講座を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生8名、教員5名、薬剤師7名

○ 保険薬局における働き方改革に関する公開講演会（\*）

・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、保険薬局における働き方改革に関する公開講演会を実施した。国は「患者のための薬局ビジョン」において地域包括ケアシステムを念頭に在宅対応を強く求めており、いかにすれば医療専門職である薬剤師が本来成すべき業務に注力できるのかが重要であることから、働き方改革を実践しているに薬局から薬剤師とそれを支えているパートナーを招き、「大変革する保険薬局薬剤師の働き方 -なぜ成すべき業務に集中できるのか-」と題する公開講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生10名、教員5名、薬剤師21名

○ がん領域における先導的薬剤師を目指す公開講演会（\*）

・学部生、大学院生、教員及び薬剤師を対象として、がん領域における先導的薬剤師を目指す公開講演会を実施した。大学院に通いながらがん領域のスペシャリストを目指すがんプロフェッショナル養成プランとの共催により、がんプロ薬剤師コースの説明後、岡山大学病院の総合診療内科で漢方外来を行っている医師による「癌治療における漢方」と題する講演を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生7名、教員6名、薬剤師1名

○ プライマリケア領域で活躍する先導的薬剤師養成に関する公開講演会（\*）

・学部生、大学院生、教員及び薬剤師を対象として、プライマリケア領域で活躍する先導的薬剤師養成に関する公開講演会を実施した。今後、特に薬局薬剤師にはプライマリ・ケア領域での活躍が大いに期待され、来局者への対応を的確に判断するためにはこれまで薬学部の教育では十分なされてこなかった医療面接や臨床推論の実践的スキルが不可欠であることから、第1回日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会との共催により、保険薬局からレジデントを受入れ実際に家庭医療薬剤師を育成している現状を紹介する講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生8名、教員2名、薬剤師11名、シミュレーション研究会参加者約50名

○ 検体plusバイタル測定講習会（\*）

・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、2017年度に実施した検体測定に関する公開講演会に続くものとして、実際に検体測定に興味のある学部生、大学院生、薬剤師を対象に3回の実技講習会を行い、現在薬剤師が薬局でできる検査や非侵襲の測定装置の使い方だけではなく、今後どのような検査や測定が利用できれば地域住民の健康維持や薬学的管理に有用かを考える機会を提供した。

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク (TPN)

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。
- ・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につながることを期待される。
- ・本事業は、来年度以降も実施する。

<長崎大学>

○ 九州薬科学研究教育連合合宿研修 **【連携】**

- ・大学院生を対象として、長崎大学、九州大学及び熊本大学薬学部の連携による連合合宿研修を実施した。独自の研究・教育活動を堅持しつつ、連携可能な課題での協働による先端研究の促進と次世代人材の養成を目的とするものである。

<熊本大学>

○ 学生団体”Amakusa Medical Students (AMS)”による研修会 **(\*)**

- ・学部生及び大学院生を対象として、地元の地域医療の現状を学ぶ研修会を学生自ら開催し、故郷における次世代の地域医療の担い手として自らできることを考える研修会を実施した。

○ 学生による天草地域の医療課題解決プランコンテスト事業 (A-1 グランプリ)

- ・学部生及び大学院生を対象として、地天草地域が抱える医療課題に対する解決プランを学生達からアイデアを募集し、このコンペを実施した。将来、優秀なプランを実現され、天草の地域医療が抱える問題解決を一助とする活動と位置付けられる。

○ 子宮頸がん検診受診率向上推進事業 (K発プロジェクト) **(\*)**

- ・学部生及び大学院生を対象として、子宮頸がん検診受診率向上推進事業 (K発プロジェクト) を実施した。
- ・熊本大学医学部 (医学科、保健学科) ・同薬学部の教員・学生、同政策創造研究所教員・学生、熊本県健康づくり推進課職員、熊本市健康づくり推進課職員、KKT熊本県民テレビ職員が一体となって、子宮頸がんの検診受診率の向上に向けた産官学が一体となった活動である。この活動を通して、医学・薬学・行政・マスコミ・社会との繋がりを学ぶことおよび命の大切さを学んだ。
- ・実際の活動としては、定期的な全体会議、熊本県内で行われている各種がん検診イベントスタッフとしての参加、熊本大学学園祭 (紫熊祭) での講義・映画鑑賞・子宮けいがん無料検診、日本学術振興会主催ひらめき・ときめきサイエンス (高校生を

対象とした実験体験型イベント)などがある。この活動に参画している S.K.K.は昨年熊本市の「いきいき健康大使」に任命され、またこの活動の一部は熊本日新聞に掲載された。

## 2) その他（大学としての取組等）

### <東北大学>

#### ○ 市民公開講座「今、ともに学び考える！」【連携】（\*）

- ・熊本地震を経験した熊本大学と東日本大震災を経験した東北大学が連携して、医学・薬学を学ぶ大学院として震災と向き合い地域に寄り添うことを志向するための「市民公開講座」を開催した。
- ・東北大学「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」（略称：G-Safetyプログラム）は、地震などに関する研究や震災からの復興現場での活動などで多くの実績があり、熊本地震の発生直後から支援や調査、情報発信などを積極的に行ってきた。
- ・当日は「講演会」のほかに「講演を10倍楽しむためのプレ講座」と「親子でも参加できる展示・参加体験コーナー」も出展した。

### <金沢大学>

#### ○ 北信がんプロ【連携】（\*）

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）は、2期の北陸がんプロ（金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大）の実績を踏まえ、先駆的ゲノム医療を実施し、信州大を加えた国公立の6大学で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指すものである。

### <長崎大学>

#### ○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2017年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。

<熊本大学>

○ 薬剤師サロン (\*)

- ・熊本大学薬学部は、薬剤師サロンは熊本及び全国の薬剤師の薬物療法に関する疑問に対して相談にお答えする現役薬剤師の悩みを解決するサロンを実施した。2006年の開設以来、問い合わせ件数は2016年4月までで約600件で、相談内容は薬物適正使用、薬物動態、TDM実施方法などの問い合わせが多く、半数以上が県外からの質問であった。
- ・薬剤師を活性化し、リサーチマインドを持たせて共同研究を展開し、活発に学会発表・文献投稿する薬剤師を育てて行くためのサロンでもあるため、研究支援、論文作成支援も行っており、薬剤師サロンが協力して作成した主な原著論文は英語原著文献4本、日本語原著論文7本、総説は少なくとも10本以上ある

○ 薬剤師のための医療薬科学研修会 (\*)

- ・本研修会は、熊本大学薬学部以外の出身者、薬剤師としての実務者（企業関係者も含む）、薬学部出身ではない方にも参加可能な臨床薬学を学ぶものである。2013年の第26回までは平均入場者数が約100名だったが、2014年～2016年まで約200名の参加者に倍増した。

○ 熊本腎と薬剤研究会 (\*)

- ・2006年に結成された「腎臓病の薬物療法」に特化した研究会であり、年に4回、これまでに39回実施し、毎回80～200人が参加している。

○ 熊本TDM研究会 (\*)

- ・毎年1回開催される治療薬物モニタリングに特化した研究会であり、主に病院薬剤師が参加する。毎回50～100人が参加している。である。

○ 市民公開講座「今、ともに学び考える！」 【連携】 (\*)

- ・熊本地震を経験した熊本大学と東日本大震災を経験した東北大学が連携して、医学・薬学を学ぶ大学院として震災と向き合い地域に寄り添うことを志向するための「市民公開講座」を開催した。
- ・東北大学「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」(略称：G-Safetyプログラム)は、地震などに関する研究や震災からの復興現場での活動などで多くの実績があり、熊本地震の発生直後から支援や調査、情報発信などを積極的に行ってきた。
- ・当日は「講演会」のほかに「講演を10倍楽しむためのプレ講座」と「親子でも参加できる展示・参加体験コーナー」も出展した。